

HAMAMATSU

PHOTON IS OUR BUSINESS

浜松ホトニクス株式会社

第63期
年次報告書

平成21年10月1日から平成22年9月30日まで

証券コード：6965



株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申しあげます。日頃より、浜松ホトニクス株式会社をご支援いただきまして、ありがとうございます。

ここに、第63期（平成21年10月1日から平成22年9月30日）における事業の概況につきまして、ご報告をさせていただきます。

当連結会計年度におけるわが国の経済は、海外経済の改善に伴う輸出の増加や、政府の経済対策などによる需要喚起等により、一部に回復の動きが見られましたものの、厳しい雇用環境が続き、期の後半からは円高が急激に進行するなど、依然として予断を許さない状況の中で推移いたしました。

このような状況におきまして、当社グループは、独自の光技術によって培われた高付加価値製品の開発を積極的に推し進め、売上高、利益の拡大に努力してまいりました。また、新規事業の創成及び更なる事業規模の拡大を目指して、営業組織の再編に着手しております。

なお、当連結会計年度の業績につきましては、前期大幅に減少いたしました売上げは過去最高であった第61期に対して完全な回復には至っていないものの、海外売上げ、国内売上げともに大幅に増加した結果、売上高は90,958百万円と前期に比べ18,982百万円（26.4%）の増加となりました。一方、利益面につきましても同様に、経常利益は16,059百万円と前期に比べ11,265百万円（235.0%）増加し、当期純利益につきましても11,491百万円と前期に比べ9,699百万円（541.3%）の増加となり、増収増益となりました。

当社グループにおきましては、株主の皆様からご支援を賜り、対前期で増収増益を達成できました。しかしながら、リーマンショック以前のレベルへの回復にはわずかに至っておらず、また、世界経済は不透明感を増しており、当社グループをとりまく経営環境は楽観視できない状況が続くものと認識しております。

そのような中、当社グループが成長し、発展するためには、光技術における新しい発見が不可欠です。光技術の産業応用は、ますます広がっておりますが、光の本質自体は、まだ解明されたとはいえません。それゆえ、研究開発型企业として、未知未踏の光の基礎研究を推し進めつつ、応用面で新しい産業を開発していく姿勢が必要であると考えております。

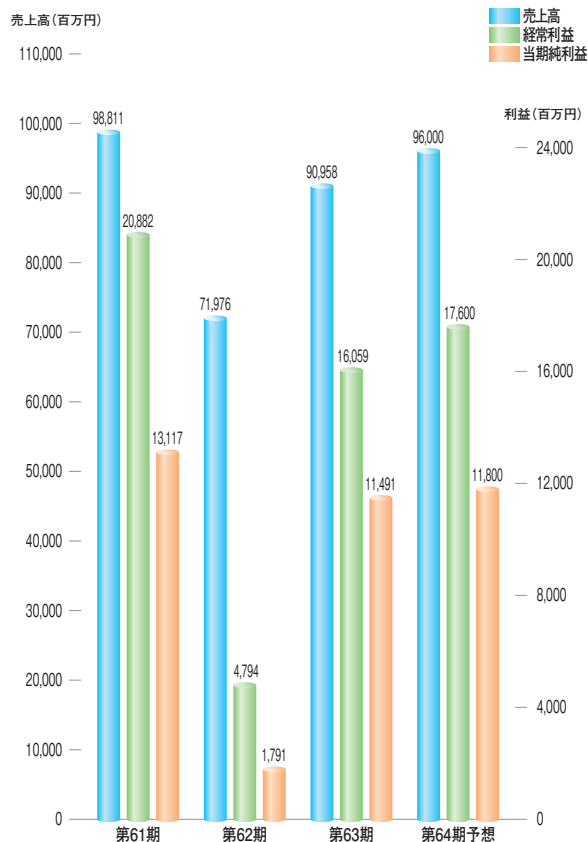
当社グループといたしましては、引続き研究開発による成果を新製品につなげて業容拡大を図るとともに、光の真理を追究する姿勢を持って、光技術の新しい発見のための研究開発投資を進め、光技術を通じて世界に貢献するよう、社員一同一丸となって努力をする所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

代表取締役社長
晝馬 明

連結業績の推移

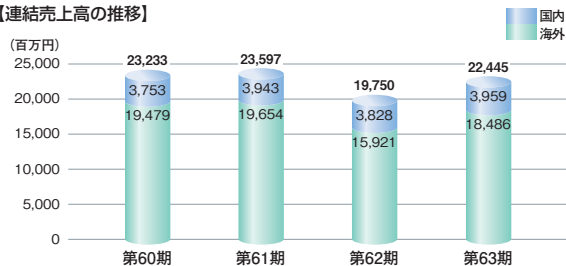


光電子増倍管

光電子部品事業

光電子増倍管は、医用分野におきまして、PET・ガンマカメラなどの核医学検査装置メーカーにおける北米・欧州やアジアにおける装置市場が拡大したことや光電子増倍管の競合メーカーが撤退したことに伴い売上げを伸ばしたほか、血液分析などの検体検査装置向けの売上げも顧客に使い勝手の良い小型化やモジュール化を進めたこと等により、順調に推移いたしました。また、計測分野におきましても、油田探査装置向けの売上げが回復するなど、光電子増倍管の売上げは増加いたしました。この結果、光電子増倍管の売上高は22,445百万円と前期に比べ13.6%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲PET用光電子増倍管



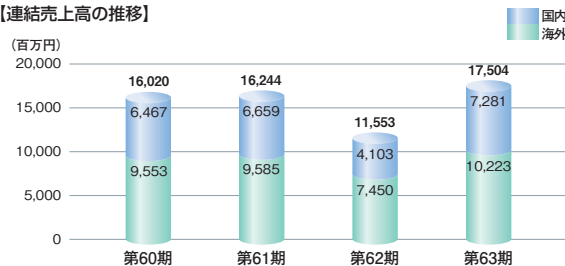
売上高比率 **24.7%**

イメージ機器及び光源

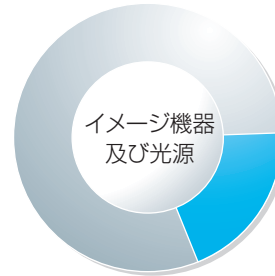
光電子部品事業

イメージ機器及び光源は、産業（半導体）分野におきまして、LED照明や液晶テレビ等のバックライトに不可欠な白色LED市場の急速な拡大に伴い、LED用ウエハを高速・高品位に切断することを可能にするステルスダイシングエンジンの売上げが大幅に増加したほか、半導体分野の設備投資が活発化したことに伴い、X線非破壊検査装置用のマイクロフォーカスX線源の売上げが増加いたしました。また、医療分野におきまして、X線画像を可視像に変換するX線シンチレータも順調に推移したことなどにより、売上げは大幅に増加いたしました。イメージ機器及び光源は、前期は大幅に売上げが減少いたしました。この結果、イメージ機器及び光源といたしましては、売上高は17,504百万円と前期に比べ51.5%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲マイクロフォーカスX線源



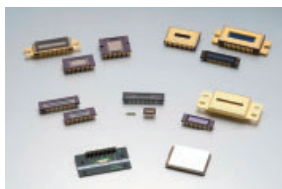
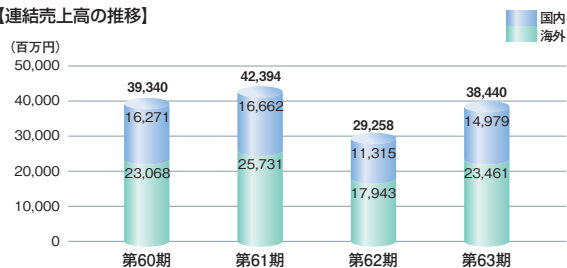
売上高比率 **19.2%**

光半導体素子

光電子部品事業

光半導体素子は、主力のシリコンフォトダイオードが、米国における医療装置向け需要が大幅に増加したことにより売上げが回復したほか、中国や韓国における設備投資の活発化により、工場内の産業用ロボット等の制御に用いられるエンコーダ向けの需要拡大が続いており、売上げを大きく伸ばしました。イメージセンサにつきましても、歯科用のX線診断装置向け及び産業分野における半導体故障解析装置向けの売上げが好調に推移いたしました。さらに、自動車の車内ネットワーク通信用のフォトICも回復を続けるなど、全般的に好調に推移し、前期の大幅な売上げ減少から今期は大きく回復しております。この結果、光半導体素子といたしましては、売上高は38,440百万円と前期に比べ31.4%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲イメージセンサ



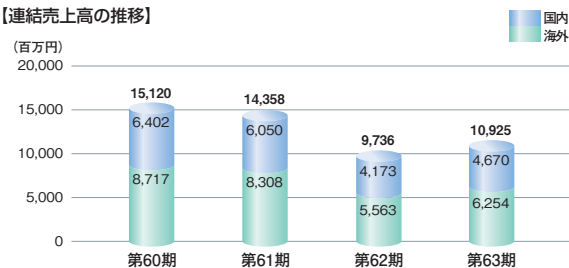
売上高比率 **42.3%**

画像処理・計測装置

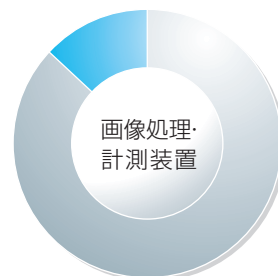
計測機器事業

画像処理・計測装置は、デジタルカメラが、新製品のCMOSカメラを投入したこともあり、バイオ分野などの研究開発用途向けを中心に売上げが増加したほか、病理組織をデジタル画像で高精細に観察できるナノズームが、カナダの遠隔病理診断プロジェクトに採用されるなど、海外において顕著に売上げを伸ばしました。また、ストリークカメラが研究分野において売上げを伸ばしたほか、産業分野における非破壊検査用X線ラインセンサカメラも前期減少したタイヤ検査用の受注が回復し、売上げが増加いたしました。一方、半導体故障解析装置及びドラッグスクリーニングシステムにつきましても、前期比では微増となったものの未だ本格的な回復には至りませんでした。この結果、画像処理・計測装置といたしましては、売上高は10,925百万円と前期に比べ12.2%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲デジタルカメラ



売上高比率 **12.0%**

当社では、長年にわたり培ってきた独自の光技術を駆使し、バイオ、医療、情報、通信、エネルギー、物質、宇宙・天文、農業等の分野において、新しい知識、新しい産業の創成を目指した基礎研究を推し進めるとともに、新製品の開発及び既存製品の高機能化・高付加価値化を目指した開発を行っております。

なお、当連結会計年度の研究開発費は、9,550百万円と前期に比べ0.3%増加いたしました。

以下に、第63期におけるその成果の一部をご紹介します。

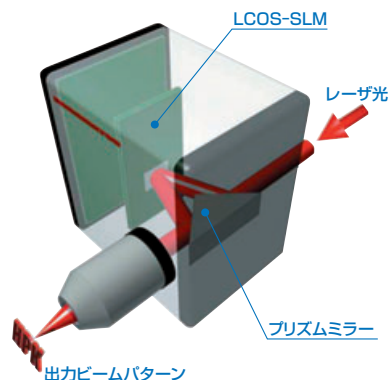
〈基礎研究分野〉

微細加工分野での利用に期待 光波面制御モジュール

光情報処理の分野におきまして、当社が高い技術レベルを誇る空間光変調器（LCOS-SLM）を組み込み、産業用に展開できる光波面制御モジュールを開発いたしました^[1]。本装置は、レーザ加工分野などにおいて近年大変注目されているフェムト秒レーザ光^[2]などのレーザビームの空間パターンを自在に制御することを目指したものです。

LCOS-SLMを光学系と組み合わせることで、フェムト秒レーザビームの高品質化を図り、かつ操作性・汎用性の向上を可能にして、高効率・高精度なレーザ微細加工を実現します。本装置は、複数点のスポット光を三次元的に制御することができるため、三次元光デバイスを自由度高く高効率に製造可能とし、近年進展が著しい微細加工分野での利用が期待されております。

光波面制御モジュールの
概念図▶



[1] 本装置はNEDOプロジェクト「三次元光デバイス高効率製造技術」において開発したものです。

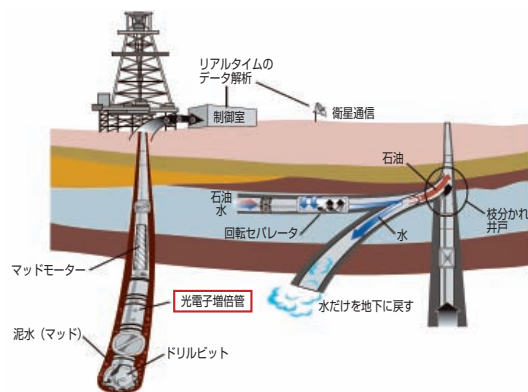
[2] 数10兆分の1秒という極めて短時間にエネルギーを集中させることのできる光パルスを生じさせるフェムト秒レーザは、従来の限界を超える超微細加工が可能で、発熱もほとんどなく材料に損傷を与えにくいと、非常に精密な金型の製造など様々な分野で応用されている技術です。

量子カスケードレーザの新たな産業応用

半導体レーザの分野におきまして、人体に悪影響を及ぼすと言われているベンゼン、トルエンなどの検出用として、量子カスケードレーザの長波長帯化の研究を進めております。現在までのところ、14~16 μm の長波長帯での安定動作が確認できており、これは世界最高の長波長特性であります。今後、環境モニタリングや薬物検出など応用分野はさらに広がるものと期待されております。

〈開発分野〉

■ 製品寿命が従来製品の約8倍の高温用光電子増倍管



▲油田探査における採掘時の様子

高温使用時の製品寿命を従来製品の約8倍に伸ばした油田探査向けの高温用光電子増倍管の開発に成功いたしました。油田探査用の光電子増倍管には、強い衝撃や振動、さらに地下の高温という悪条件のもとで、安定した性能を発揮することが求められております。このたび開発した光電子増倍管は、当社の従来品に比べて175℃で約8倍、200℃（地下5,700m相当）で約6倍の寿命を達成いたしました。

高温用光電子増倍管▶

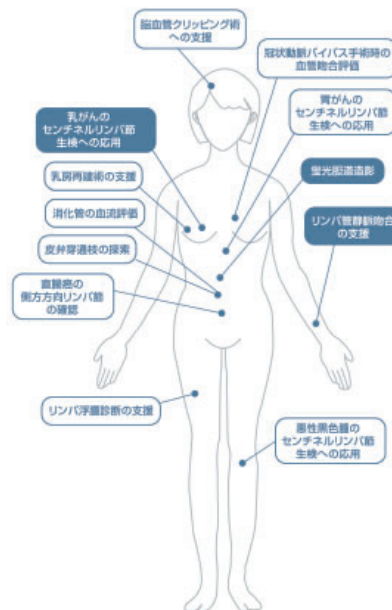


■ 生体内の血管・リンパ管を可視化し、手術中にリアルタイム観察することができる赤外線観察カメラシステム（pde-neo）を開発

当社では、赤外線を用いて肉眼では見えない血管などをリアルタイム観察する赤外線観察カメラシステム「PDE」を販売しております。PDEは、ICG（インドシアニングリーン）という薬剤を体内に投与することで、組織表面下の血管やリンパ管の動態を非侵襲的に観察するものであり、乳がんにおけるセンチネルリンパ節の生体組織検査や血管バイパス手術の術中診断に使用されております。

このたび開発した「pde-neo」は、PDEの有していた組織内蛍光観察機能に加え、臨床現場のニーズに応えるべく、新たに手術野のカラー画像取得機能や補助照明、近接撮影機能等を追加し、より操作性を向上いたしました。

ICGを用いた観察は、低侵襲性手術の有効な方向性として、乳腺外科をはじめ消化器外科、形成外科、心臓外科等様々な症例で有効性が期待されており、当社のpde-neoがこれらの推進を強力にバックアップしてまいります。



ICGを用いた観察における有効性が期待される症例▶

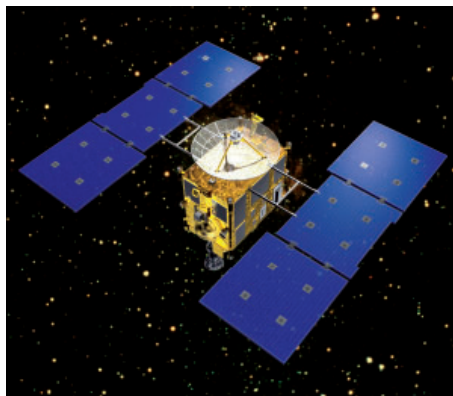
● 「はやぶさ」プロジェクトに貢献した当社の光技術

2010年6月、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の小惑星探査機「はやぶさ」は、打ち上げから実に7年の歳月をかけて地球に帰還し、世界中の注目を集めました。

この「はやぶさ」には、当社が開発した近赤外分光分析用「InGaAsイメージセンサ」と「蛍光X線用CCDイメージセンサ」が搭載され、小惑星イトカワに到達後、イトカワの表面に存在する石や砂、鉱物などといった物質の種類や組成に関する貴重なデータを地球に送り続け、観測センサとしてその高い信頼性が実証されました。

このような宇宙用としても高い実績を誇る製造技術を基本に、光通信用途も含めた民生用ビジネスにも信頼される当社製品を展開してまいります。

画像提供：宇宙航空研究開発機構



小惑星探査機「はやぶさ」イメージ

● 光半導体素子の組立専用工場として新貝工場を取得

当社の光半導体素子は、前工程（ウエハプロセス）を本社工場（浜松市東区市野町）で、後工程（アSEMBリー）を三家工場（磐田市三家）で製造しておりますが、光半導体素子の売上高の増加に加えて今後の生産計画を踏まえると、現状の工場は手狭になりつつあることから、組立専用量産工場として浜松市南区新貝町にあります工場跡地の土地・建物を取得いたしました。

新貝工場は本社工場と三家工場からともに15分程度という立地条件の良さに加え、39,146㎡と十分な敷地面積を有しています。現在の建物につきましては、クリーンルームがある工場棟及び事務棟の一部建物を残してその他は解体撤去し、将来の新しい市場開拓を踏まえた売上拡大に対応して新棟を建設する予定です。新貝工場の取得により、光半導体素子の業容拡大に向けた土地・建物上の問題点は解消されました。今後さらなる売上拡大を目指してまいります。

新貝工場▶

（平成22年10月撮影）



ハママツ・ホトニクス・ユー・ケイ・リミテッド



ハママツ・ホトニクス・ノルデン・エイ・ビー



ホトニクス・マネージメント・コーポ

ユニバーサル・スペクトラム・コーポレーション

浜松ホトニクス株式会社

北京浜松光子技術股份有限公司

ハママツ・ホトニクス・イタリア・エス・アール・エル

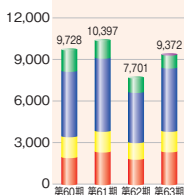


ハママツ・ホトニクス・
ドイチュラント・
ゲー・エム・ペー・ハー

■ 光電子増倍管 ■ イメージ機器及び光源
■ 光半導体素子 ■ 画像処理・計測装置 ■ その他

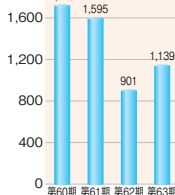
売上高

(百万円)
15,000



営業利益

(百万円)
2,000

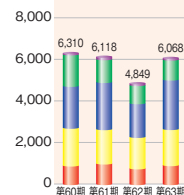


ハママツ・ホトニクス・
フランス・エス・ア・
エール・エル

■ 光電子増倍管 ■ イメージ機器及び光源
■ 光半導体素子 ■ 画像処理・計測装置 ■ その他

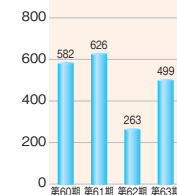
売上高

(百万円)
10,000



営業利益

(百万円)
1,000



■ 主要製造・販売会社等

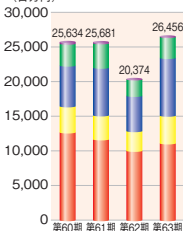


ハママツ・
コーポレーション

■：光電子増倍管 ■：イメージ機器及び光源
■：光半導体素子 ■：画像処理・計測装置 ■：その他

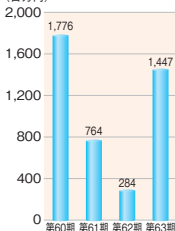
売上高

(百万円)

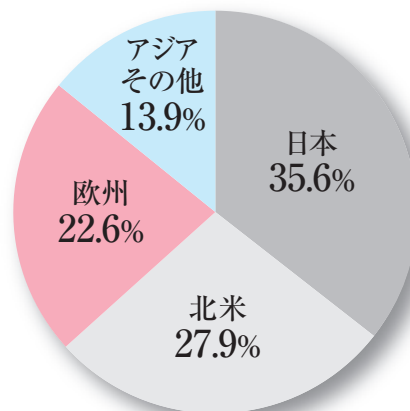


営業利益

(百万円)



[地域別(顧客所在地別)売上高比率]



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	当期 (平成22年9月30日現在)	前期 (平成21年9月30日現在)
資産の部			
流動資産		111,270	93,064
固定資産		65,136	64,962
有形固定資産		53,453	53,466
無形固定資産		715	434
投資その他の資産		10,967	11,060
資産合計		176,407	158,026
負債の部			
流動負債		29,952	25,351
固定負債		21,972	15,222
負債合計		51,925	40,574
純資産の部			
株主資本		128,296	118,819
資本金		34,928	34,928
資本剰余金		34,672	34,672
利益剰余金		64,743	55,265
自己株式	△	6,047	△ 6,046
評価・換算差額等	△	4,556	△ 2,934
その他有価証券評価差額金		43	186
為替換算調整勘定	△	4,599	△ 3,121
少数株主持分		740	1,566
純資産合計		124,481	117,452
負債純資産合計		176,407	158,026

資産の部

有価証券、受取手形及び売掛金、建物及び構築物などが増加した結果、資産合計は前期末と比較して183億円増加しております。

負債の部

1年内返済予定の長期借入金は減少しましたが、支払手形及び買掛金、長期借入金などが増加した結果、負債合計は前期末と比較して113億円増加しております。

純資産の部

為替換算調整勘定は減少しましたが、利益剰余金が増加した結果、純資産合計は前期末と比較して70億円増加しております。なお、自己資本比率は前期末の73.3%から70.1%と3.2ポイント減少しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当期 (自平成21年10月1日 至平成22年9月30日)	前期 (自平成20年10月1日 至平成21年9月30日)
売上高		90,958	71,976
売上原価		45,590	39,295
売上総利益		45,368	32,680
販売費及び一般管理費		29,617	28,938
営業利益		15,751	3,741
営業外収益		850	1,338
営業外費用		542	285
経常利益		16,059	4,794
特別利益		558	255
特別損失		472	1,715
税金等調整前当期純利益		16,145	3,333
法人税等		4,599	1,483
少数株主利益		54	58
当期純利益		11,491	1,791

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	当 期	前 期
		(自 平成21年10月1日 至 平成22年9月30日)	(自 平成20年10月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		26,274	9,227
投資活動によるキャッシュ・フロー	△	12,935	△ 27,647
財務活動によるキャッシュ・フロー	△	1,856	△ 7,319
現金及び現金同等物に係る換算差額	△	741	△ 1,058
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		10,740	△ 26,797
現金及び現金同等物の期首残高		18,007	44,805
現金及び現金同等物の期末残高		28,747	18,007

連結株主資本等変動計算書 当期 (自 平成21年10月1日 至 平成22年9月30日)

(単位：百万円)

項 目	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等			少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前 期 末 残 高	34,928	34,672	55,265	△ 6,046	118,819	186	△ 3,121	△ 2,934	1,566	117,452
当 期 変 動 額										
剰 余 金 の 配 当	-	-	△ 2,013	-	△ 2,013	-	-	-	-	△ 2,013
当 期 純 利 益	-	-	11,491	-	11,491	-	-	-	-	11,491
自 己 株 式 の 取 得	-	-	-	△ 0	△ 0	-	-	-	-	△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	-	-	-	-	-	△ 143	△ 1,478	△ 1,622	△ 825	△ 2,447
当 期 変 動 額 合 計	-	-	9,478	△ 0	9,477	△ 143	△ 1,478	△ 1,622	△ 825	7,029
当 期 末 残 高	34,928	34,672	64,743	△ 6,047	128,296	43	△ 4,599	△ 4,556	740	124,481

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	期 別	当 期	前 期
		(平成22年9月30日現在)	(平成21年9月30日現在)
資 産 の 部			
流 動 資 産		97,345	79,060
固 定 資 産		66,127	65,444
有 形 固 定 資 産		47,147	47,499
無 形 固 定 資 産		321	279
投 資 そ の 他 の 資 産		18,658	17,665
資 産 合 計		163,473	144,504
負 債 の 部			
流 動 負 債		25,788	21,320
固 定 負 債		21,504	14,831
負 債 合 計		47,293	36,152
純 資 産 の 部			
株 主 資 本		116,136	108,165
資 本 本 金		34,928	34,928
資 本 剰 余 金		34,636	34,636
利 益 剰 余 金		52,614	44,642
自 己 株 式	△	6,043	△ 6,042
評 価 ・ 換 算 差 額 等		43	186
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		43	186
純 資 産 合 計		116,180	108,352
負 債 純 資 産 合 計		163,473	144,504

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	当 期	前 期
		(自 平成21年10月1日 至 平成22年9月30日)	(自 平成20年10月1日 至 平成21年9月30日)
売 上 高		79,235	61,518
売 上 原 価		45,222	39,230
売 上 総 利 益		34,012	22,287
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		22,044	21,362
営 業 利 益		11,968	925
営 業 外 収 益		1,652	2,295
営 業 外 費 用		237	425
経 常 利 益		13,383	2,795
特 別 利 益		556	968
特 別 損 失		457	1,683
税 引 前 当 期 純 利 益		13,482	2,080
法 人 税 等		3,496	1,085
当 期 純 利 益		9,985	994

株主資本等変動計算書

当期 (自 平成21年10月1日 至 平成22年9月30日)

(単位：百万円)

項 目	株 主 資 本								自己株式	株主資本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	純 資 産 合 計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金								
		資本 準備金	利益 準備金	特別償却 準備金	配当準備 積立金	別 途 積立金	繰越利益 剰余金					
前 期 末 残 高	34,928	34,636	695	81	4,500	35,600	3,765	△ 6,042	108,165	186	108,352	
当 期 変 動 額												
特 別 償 却 準 備 金 の 取 崩	-	-	-	△ 27	-	-	27	-	-	-	-	
剰 余 金 の 配 当	-	-	-	-	-	-	△ 563	-	△ 563	-	△ 563	
剰 余 金 の 配 当 (中 間 配 当)	-	-	-	-	-	-	△ 1,449	-	△ 1,449	-	△ 1,449	
当 期 純 利 益	-	-	-	-	-	-	9,985	-	9,985	-	9,985	
自 己 株 式 の 取 得	-	-	-	-	-	-	-	△ 0	△ 0	-	△ 0	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 143	△ 143	
当 期 変 動 額 合 計	-	-	-	△ 27	-	-	7,999	△ 0	7,971	△ 143	7,827	
当 期 末 残 高	34,928	34,636	695	54	4,500	35,600	11,764	△ 6,043	116,136	43	116,180	

●会社の概況

設立	昭和28年9月29日
資本金	34,928百万円
従業員数	2,834名
主要営業品目	光電子増倍管、イメージ機器、光源、 半導体素子、画像処理・計測装置

役員（平成22年12月17日現在）

取締役会長	書馬輝夫
代表取締役社長	書馬光明
代表取締役副社長	大山塚治司
代表取締役専務取締役	山本晃永
常務取締役	竹内純一
常務取締役	飯田一等
取締役	内山博文
取締役	小池隆司
取締役	小吹信三
取締役	嶋津忠彦
取締役	鈴木賢次
取締役	武村光隆
取締役	原堅司
取締役	吉田憲夫
常勤監査役	村上松文
常勤監査役	柴谷元
監査役	伊地知隆彦

国内拠点（平成22年10月1日現在）

本社事務所	〒430-8587 静岡県浜松市中区砂山町325番地の6 日本生命浜松駅前ビル	☎ (053) 452-2141
本社工場	〒435-8558 静岡県浜松市東区市野町1126番地の1	☎ (053) 434-3311
三 家 工 場	〒438-0127 静岡県磐田市三家768番地の8	☎ (0539) 63-5810
豊岡製作所	〒438-0193 静岡県磐田市下神増314番地の5	☎ (0539) 62-3151
天王製作所	〒435-0052 静岡県浜松市東区天王町1705番地	☎ (053) 421-7126
常光製作所	〒431-3196 静岡県浜松市東区常光町812番地	☎ (053) 435-1560
都田製作所	〒431-2103 静岡県浜松市北区新都田一丁目8番3号	☎ (053) 484-1300
東京支店	〒105-0001 東京都港区虎ノ門三丁目8番21号 虎ノ門33森ビル5階	☎ (03) 3436-0491
東京営業所	〒105-0001 東京都港区虎ノ門三丁目8番21号 虎ノ門33森ビル5階	☎ (03) 3436-0491
中部営業所	〒430-8587 静岡県浜松市中区砂山町325番地の6 日本生命浜松駅前ビル	☎ (053) 459-1112
大阪営業所	〒541-0052 大阪府中央区安土町二丁目3番13号 大阪国際ビルディング10階	☎ (06) 6271-0441
筑波営業所	〒300-2635 茨城県つくば市東光台五丁目9番2号	☎ (029) 847-3821
仙台営業所	〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目6番11号 日本生命仙台勾当台ビル2階	☎ (022) 267-0121
中央研究所	〒434-8601 静岡県浜松市浜北区平口5000番地	☎ (053) 586-7111
筑波研究所	〒300-2635 茨城県つくば市東光台五丁目9番2号	☎ (029) 847-5161
産業開発研究所	〒431-1202 静岡県浜松市西区呉松町1820番地	☎ (053) 487-5100

●株式事項

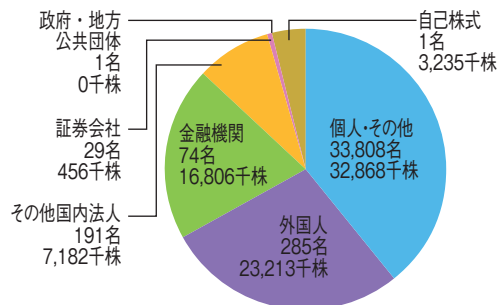
■発行済株式総数 83,764,984株

■株主数 34,389名

大株主	株式数
トヨタ自動車株式会社	4,200,000株
浜松ホトニクス従業員持株会	4,036,552株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	3,414,800株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2,911,900株
書馬輝夫	1,974,442株
オーエム04エスエスピークライアントオムニバス	1,777,200株
ビービーエイチ マジューズ アジアン グロス アンド インカム ファンド	1,598,300株
野村信託銀行株式会社（投信口）	1,270,100株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,224,379株
ハイアツト	1,080,000株

（注）上記のほか、自己株式3,235,505株があります。

■所有者別株式分布状況



■第63期配当金

中間配当金	1株につき 18円
期末配当金	1株につき 22円

●株主メモ

◇株式に関する各種お手続きのお申出先◇

1. 未払配当金の支払いのお申出先

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

電話 (通話料無料)

0120-78-2031

(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

2. 住所変更、単元未満株式の買取、配当金 受取方法の指定等のお申出先

①証券会社に口座をお持ちの株主様

⇒お取引証券会社等にお申出ください。

②証券会社に口座をお持ちでないため特別口座が開設されました株主様
⇒特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

電話 (通話料無料)

0120-78-2031

(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

事業年度 10月1日から翌年9月30日まで

定時株主総会 毎年12月

基準日 (1) 定時株主総会については9月30日といたします。
(2) その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒460-8685
名古屋市中区栄三丁目15番33号
中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部

単元株式数 100株

公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告によることができない場合は、日本経
済新聞に掲載いたします。

公告掲載の当社ホームページアドレス
<http://www.hamamatsu.com/ja/ir/index.html>

ホームページのご紹介

当社のホームページでは、製品情報、製品サポート、展示会情報、研究開発、会社情報、株主・投資家情報などのほか、光に関する様々なコンテンツを提供しております。



ホームページアドレス

<http://jp.hamamatsu.com>

HAMAMATSU
PHOTON IS OUR BUSINESS

